

自信と確信をもって88年の闘いへ

報大臨
告その2

日刊 動労千葉

87. 12. 25

No. 2728

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七

第13回臨時大会での中野委員長のおこしやり

本大会の開催で、いすみ鉄道強制出向攻撃など大変重要な事態を迎え、強制出向にはストライキで闘う、と決定した第十二回定期大会方針に基づき、闘う方針を決定し、この年末・年始の闘いに突入したい。

第十二回大会を前後し、世界情勢は大変な事態となっている。ニューヨーク株価の大暴落は、一九二九年の世界大恐慌と第二次世界大戦に入ってしまったあの時と全く同じであり、まさしく戦争の時代に入った。

世界に君臨していたアメリカは出口なき危機に直面し、日本でファシストが、ヨーロッパ各国でもナチの台頭で世界侵略戦争へ突入していった。われわれ労働者階級はこうした過去の教訓にふまえ、日帝の戦争政策にたち向かって行かなければならない。

全民労連と対決せよ

また、こういう時に、総評の解体に合わせ全民労連が結成された。これは、戦後、平和と民主主義をかかげてきた総評を自ら解体し、そのみでなく、権力の意、戦争政策を積極的に押し進めるものであることは明確だ。戦争に反対すべき労働組合が早くも産報化した。「全民労連」との対決を決意しなければならぬ。

闘う国鉄労働運動の再構築を

「四・一分割・民営化」を強行した。しかし、何一つ解決しないばかりか、より多くの矛盾が噴出してきている。敵は国鉄労働運動を解体できなかつたばかりか鉄道労連では、革マル・鉄労の対立・分裂がますますハッキリし、不満も続出している。ここで日帝は鉄労ではなく、革マルを国鉄労働運動破壊のパートナーとした。松崎は「国労を首にしる」「広域配転は鉄産労を出せ」と言っている。しかし、「配転は鉄道労連を出す」と言い、当局に屈服している以上、当然だ。もはや解決不能だ。国労は遂に革マル批判を始めた。今まで革マル批判をしてきたのはわれわれだけだった。日共にすればこれは内ゲバだった。これは革マル松崎が全国鉄労働者を敵に回したことであり、そういう時代になった。

今や動労千葉の正義性、路線の優位性は明確だ。たしかに情勢は厳しいが、まぎれもなくわれわれ

の正義が中心に据えられた。今こそ全国に向けてき進もう。国鉄労働運動の再構築をかちとろう。

新体制と財政基盤の確立を

この二年間の闘いの中で、確かにわれわれはキズおった。今各支部の大会の成功ががちとられているが、支部新執行部はフレッシュな、若々しいメンバーが選出されている。この十二月・一月に全支部が大会を決定している。支部新体制の確立は重要だ。向こう一年間でこれをやりとげよう。

同時に、協販部は最後の追い込みにガンバっている。何んとしても目標達成しよう。また、家族会は、二十日、交流会開催を決めた。家族会の強化、充実が動労千葉の最重要課題だ。交流を深め、充実をはかりたい。

いざ八八年の闘いに

今や大変な時代に突入している。その中で、動労千葉は着実に前進している。これはJR・会社当局には大変な重圧だ。津田沼支部大会で、暴挙を行った。しかし、彼らはオドオドしていた。迫力はわれわれの方がはるかに上だ。

今ふたたび労働運動を動労千葉が牽引しよう。「六三・三ダイ改」にたち向おう。自信と確信をもって八八年の闘いにつき進もう。



闘いの方針を確立した第13回臨時大